

「第2次真庭市図書館みらい計画(真庭市図書館基本計画・子ども読書活動推進計画)」(案)に対する意見の概要と市の考え方 案

番号	該当箇所	意見の概要	市の考え方
1	全体について	真庭市図書館の使命が明確で、そのための施策が利用者の対話から作り上げられており、読んでいてワクワクしました。	<p>現行の「真庭市図書館みらい計画」策定に続いて、第2次計画策定においても、ヒアリングやアンケートへの回答、「図書館そだて会議」などを通じて、多くのご意見やご提案をいただくとともに、一緒に考えていただきました。</p> <p>計画策定後も、市民との対話と協働をつうじてよりよい図書館づくりに努めていきます。</p>
2	全体について	第2次真庭市図書館みらい計画を読み、図書館の目指す方向性が分かりやすくまとめられていると感じました。 それぞれの柱で大切にされていること、やっていくことがイメージとして浮かびやすいのは、21年策定の「図書館みらい計画」から今日まで図書館が展開されてきた多種多様な活動の結果だと思っています。	
3	全体について	本計画を読んで、素直に「なんてすばらしい計画なんだ」と思いました。こんな計画を立てられる図書館は全国的に見てなかなか無いと思います。	
4	全体について	我が子が「図書館は楽しいところ」と自然に感じていることをありがたく思います。日々運営に尽力されている皆さま、そしてそこに集う市民の皆さまに感謝いたします。図書館が単なる本の貸し出し場所ではなく、安心して過ごせる居場所になっていることを実感しています。	
5	全体について	本計画と共に、一市民としてゆるやかに協働できれば幸いですし、これからの図書館の活動を引き続き一緒に楽しめたらと思っています。	
6	全体について	北極星のような方向性があること。こんな素敵な北極星があるまちに住めてうれしいなあと感じています。	

7	全体について	<p>○真庭市の図書館の使命「市民と団体による地域自治の拠点」と5つの柱にとっても共感しました</p> <p>○「応え」response あう中で、「答え」answer が生まれてくる場にごどもの頃から、遊びと本が身近にあったことで自分自身の原体験を豊かにしてくれたことを感じています。その中には親だけではなく、地域館の司書さん、学校図書館の司書さん、そんな地域の大人がナナメの関係の中で「応え」続けてくれたことをなつかしく新鮮に思い出しました。</p>	
8	全体 概要版について	<p>今回のパブリックコメントにあたり拝見した概要版案は、カラーやイラストが用いられ、とても読みやすく工夫されていると感じました。一方で、意見聴取ページの薄いグレーの文字はやや読みづらく、老眼の身には少々疲れまして。よりアクセシブルなデザインへのご配慮をお願いできればと思います。</p>	<p>完成版はA3サイズよりも大きい版とし、読みやすいものになるよう工夫します。</p>
9	全体 使命について	<p>この計画の中で、もっとも大切な部分は、2ページの図書館そのものの使命が書かれている「注釈3」だと思います。しかし、ここは注釈であり計画本文ではありません。ぜひ、計画本文に記載してほしいと思います。</p>	<p>「計画策定の背景」のなかで公共図書館の基本的な役割として言及した内容について、第2章の「1 使命」の部分で触れることとし、注釈もこちらに記載します。</p>
10	柱1 重要キーワードについて	<p>「市民の誰もが「図書館があってよかった」と思えるように」という言葉は、この図書館がなくなれば真庭に住む理由がなくなると思っている私にとって心強さを感じます。</p>	<p>第2次図書館みらい計画では、評価の指標に「図書館があってよかったと思う市民の割合」を加えています。真庭市立図書館が「地域自治の拠点」としての役割を果たしているかどうかを、市民が直接図書館を利用するという場面だけでなく、図書館と多様な関りを持ち、それをよいと感じている方の割合で捉えてみるというものです。より多くの市民にこのように感じてもらえるように取り組んでいきます。</p>
11	柱1 資料の収集と提供について	<p>「(3) 市民が自らの課題に気づき、解決していくための資料や情報を提供します。」について</p> <p>社会的イベントや宗教団体に関する理解を深めるため、客観的な資料や情報を収集し、整理して提供する取り組みを検討してはどうか。</p>	<p>図書館では宗教関係の資料も収集・提供しています。当市の図書館の規模では所蔵しきれていないものも多数ありますが、全国の図書館間の協力貸出の仕組みを使い、市民に提供しています。</p>

		日本では宗教教育の機会が限られており、信仰に関する知識不足が生じやすい。宗教や思想への理解をすすめるために、幅広い資料を提供する必要がある。	す。今後も引き続き、宗教にかかわる問題はもちろん、社会的なテーマについても資料や情報を収集・提供していきます。
12	柱1 自動車文庫の運行について	病院での闘病中、読書により励まされたり、資格取得の勉強ができたという話を聞いたことがあります。「病院」もルートにしてはいかがでしょう。	自動車文庫の運行コースは、3か月に一度利用の状況などを参考に点検し、必要に応じて見直しをしています。病院への乗り入れは、過去に一度検討したものの実現しませんでした。ご意見を参考にさせていただきます。
13	柱1、柱5 図書館職員の処遇について	<p>・6ページの柱1「限られた人員と予算という厳しい状況が続く中で～」</p> <p>・26ページの柱5「市民発案の企画やイベントが増える一方で、スタッフの負担も大きくなり、従来の司書の役割以上のことが求められてきている。」</p> <p>これらが示す、図書館職員の方々の疲弊と雇用状況を心配しています。現場を支えておられる職員のほとんどが非正規雇用との話もありますが、本当でしょうか。</p> <p>読みたい本をすぐ読めるように日々管理し、我々市民の「やってみたい」「やってほしい」にいつも全力で応えてくださる職員の方々の姿勢と仕事が、きちんと評価されることを強く求めます。</p> <p>本計画はこれからの5年間の活動を形づくる重要なものですが、5年後の図書館に思いを馳せ行動に移していくには、年度更新に縛られない安定した労働環境が必要不可欠です。</p> <p>そこで本計画においても、今の図書館を支えている方々の存在をより前面に出しても良いのではないのでしょうか。</p> <p>具体的には、柱1の持続可能性の中で触れるのではなく、「図書館の運営体制」についての独立した柱（あるいは、各柱の下に横たわる「土台」の方が私のイメージです）があればと思いました。</p>	<p>現行の「図書館みらい計画」に沿って、図書館だけでなくさまざまな方々と関わりしる・あそび、を大切にしながら学びとつながりづくりに努めてきた結果、図書館がいわゆる公民館的なこともするようになってきました。これは、真庭市民が求めていることに図書館が応じてきたことの一つの成果と考えています。それに伴う職員の業務量や労働環境について、ご心配いただきありがとうございます。図書館の人員体制に限って言えば、これまでも少しずつ改善されてきたところです。とはいえ、この件は図書館だけではなく、真庭市役所全体の問題と認識しています。本計画では、柱1（2）に図書館としてできることをまとめました。</p> <p>柱1は副題を「公共図書館としての存立基盤の整備」としているとおり、図書館運営の基礎・土台にあたる性格をもつ柱となっています。</p>

14	柱1 図書館職員のスキルアップについて	<p>どのような課題意識のもとで、どのような資質の向上を目指し、そのためにどのような研修が必要なのかが、利用者の立場からはやや見えにくいように感じます。</p> <p>現在の図書館の大きな課題は、司書の役割や専門性が利用者に十分伝わっていないこと、専門性が活かされない“宝の持ち腐れ”の状態になっていることではないでしょうか。</p> <p>今後五年間は、より大胆に「司書一人ひとりの魅力が前面に出る図書館」を目指すべきではないでしょうか。中央図書館では、館長以上に現場の司書が存在感を放ち、個性と発信力を活かして利用者をつながる姿が理想だと考えます。貸出数や利用者数の伸び悩みには、制度面だけでなく、司書の個性と専門性が十分発揮されていないことも影響していると考えられます。</p> <p>ECサイトが効率的に本を薦める時代だからこそ、公共図書館の価値は「顔の見える司書の言葉」にあります。例えば、司書が悩みに寄り添い本を紹介する“人生相談ポスト”、一箱図書館、得意分野の見える化など、司書の魅力と専門性を可視化する取り組みが考えられます。「このテーマならあの司書さん」と思える関係性こそ資質向上の成果です。司書の資質向上とは知識の蓄積だけでなく「市民との関係性を築く力」を育てることだと考えます。この視点をみらい計画に明確に位置づけることを提案します。</p>	<p>図書館を始めとした様々な資料に関する知識を持ち、図書館蔵書として収集・分類して提供すること、様々な情報のなかから信頼できるものを分かりやすく案内することなどが司書の専門性と考え、日々の業務の中や研修の受講により研鑽を積んでいるところです。</p> <p>ご指摘のとおり「司書の資質向上とは、資格や知識の蓄積だけでなく、『市民との関係性を築く力』を育てること」も求められていると認識しており、同時に取り組んでまいります。</p> <p>計画を具体的に進めていく中で、このような司書の資質向上に関わる取り組みのほか、司書の個性や経験を活かし、「顔の見える司書の言葉」を大切にしながら魅力的な図書館のあり方について模索していきます。</p>
15	柱2について	<p>○こども達がわんさか遊びにくる一方、本をかりる子はとっても少ないと伺いました。</p> <p>○既にたくさんの工夫を重ねておられるかと思いますが、「こどもが本を読みたくなっちゃう」「本をひらいてみたくなくなっちゃう」のは遊びながらがいいのかなあ</p> <p>○きっかけづくりとしての案：図書館探検隊ミーツケ！（自分が見つけたおもしろそうな本を紹介する。本で見つけた言葉を書いて展示するなど）、こどもと大人がごちゃまぜ対話（こどもが大人の相談にのる。人生相談本フェスを同時開催など）</p>	<p>図書館に来た子どもたちが、読書や本のたのしさに出会うとともに、さまざまな人とも出会い、成長していけるような企画のご提案をありがとうございます。具体的な事業の実施に当たり、ご意見を生かしていきます。</p>

16	柱3 地域資料について	時代の情勢を見て項目化してほしいこと：地域資産と結び付け互いに補う形の蔵書形成	<p>市内各所に所在する地域資産や文化財に関する資料の収集については、図書館だけではなく市の関係部署、博物館、資料館など連携しながら進めていく必要があると考えています。</p> <p>図書館では今後も紙媒体を中心に資料収集と提供に努めていきます。こうした資料は一般に流通しないことが多く、地域の方々からの寄贈に頼らざるを得ないため、柱3④の具体的な事業・活動として、「・書籍に限らず、地域で暮らした人たちが残した資料の収集に努める」の一文を加えます。</p>
17	柱5について	<p>(3) 人が集うところへ出向き、図書を通じた交流の場</p> <p>あそび場へのブックるんまにわの出動など、あそびながら絵本をはじめ本と出逢う機会が増えたらいいな。</p>	<p>ご指摘のとおり、こども園や学校図書館、放課後児童クラブ、ご意見にあるあそび場といった子どもたちのいる場所へ出向いていくことも必要と考え、柱2(1)④、(2)③に明記しました。子どもの周りにいる人たちのお力も貸していただきながら子どもたちに読書や本のたのしさを伝えていきたいと考えています。</p>
18	柱5 図書館活動への市民参画について	<p>柱5「誰かとつながる場所になる」について 図書館発案・市民発案に関わらず図書館内外で展開されている取り組みに、いつも楽しく参加しています。</p> <p>すでに幅広く図書館が活動されているため特に言及することはないのですが、市民側からももっと運営の近くで関わることがあれば良いのに、と思っています。</p> <p>具体的に何ができる訳でもないのですが、私はいつも図書館の好意に甘えているような気がしています。それは真庭市立図書館がオーバースペックとも思えるような活動量で、楽しみ方を提供してくださっているからで、ともするとこの充実した図書館の水準に慣れてしまいつつあります。こんな図書館が当たり前に存在する真庭市民は幸せなことなのですが、イベントに参加するだけではない関わり方として何かがあるか、図書館と市民双方で「こんな関わり方があるよ」「こんな関わり方であれば一緒にやりたい」を「図書館そだて会議」のような場で知りたいと思いました。</p>	<p>イベント企画だけでなくもっと図書館に関わりたい、一緒に自分たちの図書館を育てていきたいと思ってくださる方が増えていくように、柱1(1)①による取り組みを充実させ、『『応え(response)』あうなかで『答え(answer)』が生まれてくる場』を図書館と市民とで一緒につくっていききたいと考えております。</p>

19	資料収集と活用についてについて	時代の情勢を見て項目化してほしいこと：戦争の記録の収集と正しく理解するための資料活用	図書館では歴史書や小説、漫画などさまざまな形で表現された戦争の記録を収集しています。2025年度には「戦後80年図書館連続講座」として、「食べる」をキーワードに戦争や戦後の生活をふりかえる取り組みを全館で行ったところです。戦争を体験した世代がいなくなった後も、その体験や記憶が記録として残り、伝えられるよう、資料収集や事業実施に引き続き努めます。
20	資料収集と情報提供について	スマートフォンで文字を読むことが脳に負担をかける可能性があるという指摘を読んだ。このような情報を広く共有してほしい。 利用者は図書館で借りた本を気に入れば購入することもあり、CDからレコードへ回帰する動きのように、紙の本の価値を感じる人も多い。 また、図書館の蔵書数が多い地域ほど住民の健康状態が良いという報告も読んだ。図書館と健康の関係性も重視すべき。	紙媒体での読書や電子媒体での読書については、健康面のほかアクセシビリティ面でもメリットとデメリットがあり、現時点では一概にどちらが優れているとは言えないと考えております。 図書館の蔵書数と健康についての報告は、高齢者7万人を7年間追跡調査したところ、図書館の蔵書が人口当たり1冊増えると、その地域の高齢者の要介護リスクが4%減少することに相当する関係が明らかになったというもので、慶応義塾大学総合政策学部専任講師の佐藤豪竜氏らの研究グループによるものです。読書の機会を提供し、市民が集う場としての図書館と健康の関係を示すものとして注目されます。 当市でも図書館として市民の健康に貢献していくために、柱1(3)①や(5)②で、蔵書および環境整備を行うこととしています。
21	具体的な事業・活動について	芸術鑑賞には健康増進の効果があるという報告がある。鑑賞のハードルを下げするためにも、図書館の空きスペースを活用して美術品を展示してはどうか。社会全体として視覚的な表現への関心が高まっており、博物館や大学においてもブランドやデザインの分野との連携が進んでいる。	図書館における芸術鑑賞の機会拡充について、ご意見をありがとうございます。現在も、写真パネル展や児童生徒の作品の展示など行っており、引き続きこのような機会を作っていきたいと考えています。

22	具体的な事業・活動について	<p>本は、知識や想像力、人を思いやる力など、人生を豊かにする“目に見えない力”を育ててくれるものだと感じています。また、お金では買えない価値に出会う手段でもあります。だからこそ、子どもから高齢者まで、誰もが読書や知の世界に触れるきっかけを持てる環境づくりが大切ではないでしょうか。学校での「読書の時間」との連携や、真庭市にゆかりのある歴史・人物・産業などに関連した図書特集やミニ講座など（すでに取り組みされているものもあるかもしれませんが）、図書館のほかにも“本への入口”を広げる工夫があれば、さらに魅力が高まると感じました。</p>	<p>「子どもから高齢者まで、誰もが読書や知の世界に触れるきっかけを持てる環境づくり」や、図書館が単に本を借りる場にとどまらず、地域の歴史や文化に触れる入口、多世代がゆるやかにつながる拠点として機能していくことは、ご指摘のとおりこれからの地域づくりにおいて重要な視点だと考えております。具体的な事業の実施に当たり、ご意見を生かしていきます。</p>
23	具体的な事業・活動について	<p>これからの図書館には「本を借りる場所」以上の役割が期待されているとも思っています。子どもが本に出会う入口としてだけでなく、多世代がゆるやかにつながる拠点、学び直しや対話が生まれる場としての機能が充実すれば、人口減少が進む中でも“真庭に暮らす価値”を高める存在になるのではないのでしょうか。</p> <p>例えば、大人と子どもが対等に関わることのできる交流の場づくり（例えばこどもホスト、こどもホステスなど。歓楽施設設定でなくてよいのですが）も一案だと考えます。子どもが主体的にもてなす側に立つような催しを通して、子どもの本音が聞けたり、大人の悩みを子どもが解決する場面が生まれたりすることで、新しい関係性が育まれる可能性もありそうです。</p>	<p>単に本を借りる場にとどまらず、地域の歴史や文化に触れる入口、多世代がゆるやかにつながる拠点として図書館が機能していくことは、これからの地域づくりにおいて重要、とのご指摘ありがとうございます。お示しいただいた企画案を含め、今後計画を進めていく上で、ご意見を生かしていきます。</p>
24	具体的な事業・活動について	<p>真庭市に住むようになって都市部にいた頃よりも「季節の流れ」を強く感じるようになりました。地域の祭りなどの行事は季節とともに営まれています。真庭的歳時記をそれぞれの地域で編み、それを図書館が記録・紹介することで、市民の記憶が受け継がれ、地域への愛着や伝統へのリスペクトにつながるのではないかと感じました。市民のひとりとして、これからも図書館とともに真庭の文化を育てていけることを楽しみにしています。</p>	<p>真庭市の図書館として、真庭市ならではの資料を収集し、市民とともに活用していくことで、真庭の文化への愛着を育むお手伝いができればと考えています。具体的な事業の実施に当たり、ご意見を生かしていきます。</p>

25	図書館の公民館的機能について	<p>本計画において掲げられている基本的な考え方の一つは、「図書館に公民館の機能を持たせていくこと」と解釈しています。</p> <p>実際に公民館の機能を持たせるためには、図書館で働く職員さんが司書業務のみでなく、社会教育の視点や福祉の視点を持った仕事内容をするようになる、または、公民館機能を担当できる職員を採用する必要があると思います。そもそも、公民館には公益的機能があり、市としてそこに職員を設置するなど予算を割くことは当然だと思うのです。活動の柱となるのは人です。公民館の機能を図書館に担ってもらおうという方針で進めるのであれば、既存の人的資源に頼るのではなく、より多くの予算を割いて採用・教育を強化することは当然ではないでしょうか。</p> <p>そして、この計画において、中央図書館ではすでに実施できているが、地区館においてはなかなか実施できていないことが多いのではないかと感じました。各館の公民館機能の向上を図るのであれば、これもまた教育・採用を強化するのは当然のことと思います。</p> <p>市としてすでに行われてきている図書館の公益的な活動、その成果を認め、今後の人材の確保に力を注いでいただきたいです。</p>	<p>現行の「図書館みらい計画」に沿って、図書館だけでなくさまざまな方々と関わりしろ・あそび、を大切にしながら学びとつながりづくりに努めてきた結果、いわゆる公民館的なこともするようになってきました。これは、真庭市民が求めていることに図書館が応じてきたことの一つの成果と考えています。</p> <p>図書館が本来の役割以上のことを担うのであれば、それ相応の予算的措置や職員体制が必要であるとのことご指摘はそのとおりだと考えます。これは図書館だけではなく、真庭市役所全体が抱える問題と認識しています。本計画では、柱1（2）に図書館としてできることとしてまとめました。</p>
----	----------------	--	---